

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3292200023		
法人名	社会福祉法人 愛宕会		
事業所名	グループホーム さくら荘		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町郡582-1番地		
自己評価作成日	平成22年 8月 18日	評価結果市町村受理日	平成22年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://lllp://kouinyou-c.tukusni-shimane.or.jp/kajigosin/infomationPublic.do?LCD=3292200023&SC
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成22年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりが、「ここにいてよかった」と思えるような居心地の良い居場所を提供したい。そのためには、職員の毎日のかかわり方の工夫次第であると思う。毎日のミーティングから、情報を収集し、職員が一丸となり、質の向上を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、利用者へのよりよいサービスのためには職員のチームワークが一番と考え、職員同士が互いに受け入れあい理解しあうために話し合いの時間を多く持ったり親睦の機会を設けるなど工夫している。食事や排泄、入浴、楽しみごとなど、利用者一人ひとりに合わせた関わり方をみんなで考え、全職員が方針を共有しながら統一した支援に努めている。重度の利用者にも可能な限り対応したいと話し合いを重ねながら取り組みを始めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、職員会や、業務検討会に於いて、理念や基本方針に基づいたケアを実践している	日々のケアが理念に沿ったものになるよう職員全員で常にミーティングなどで話し合い、方針を共有しながら意識的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が地域対象に盆踊り大会を毎年実施している 広い庭を、地域のペタンクコートに利用し、時々は草刈をしていただいている	野菜や花の差し入れ、法人の行事を通しての交流、地域の人へのペタンクコートの提供など、前年度と同様の取り組みが継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族から認知症介護について相談があった時には、本人の思いを受止めるようお話ししている 認知症を抱えた家族の方から、関わり方の相談を受けたことがある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスについての課題が挙がったときは、職員全員で検討し、運営推進会議にて、状況報告を行い、意見を求め、サービスの向上に努めている	利用者の状況や活動、事例報告などを行い出席者から質問を受けたり情報交換などを行っている。全体として報告が多くなっている。	会議の内容を工夫したり、時には委員以外の人にも出席してもらい、一緒にサービス向上に関われるような会議になることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールを通じていつでもサービスの取り組みについて連絡できるようにしている 問題解決方法を問うこともある(送迎について)	わからないことを聞いたり情報提供を受けるなど日常的に連携に努めている。メールを活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり、周知徹底している 身体拘束の必要な方はおられない 夜間のみ不審者進入防止の為、玄関に鍵をかけている	身体拘束の具体的な内容を職員全員で学習し、利用者の自由な生活の支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての勉強会を行い、日頃より、会話や態度等に十分配慮し、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットにて制度について情報を提供している 今のところ、必要な方はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込者、又はその家族から、サービス提供前の問い合わせ及び見学に対する仕組みがある 契約の際には、契約書及び重要事項で丁寧に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員に家族代表がおり、会議時に意見、要望を求め、職員全員で検討し、支援に結びつけている	家族の来訪時に利用者の状況を伝え意見を聞くようにしているが家族全員が集う機会がない。ケアについての意見にはすぐに対応している。	運営推進会議や行事などを利用して家族が全員集まる機会を計画し、さらに意見の引き出しに努めていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、職員会議時、個々に意見を求めるようにし全員で話し合い、統一した支援を行っている	管理者は会議などで職員一人ひとりから意見を聞くことに努め意見を運営に反映させている。職員が意見を言いやすい職場づくりを目指しチームワークを大事にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を用いている 職員の資格取得のため一部補助し、積極的に資格取得に取り組むことができるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修会にはできるだけ出席できるように勤務体制を組んだり、研修報告会を行い、実践に活かしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センター主催の交流会があり、収集した情報の報告会を行い、今後の支援に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学できるようにしており、本人の困りごとや心配ごとを伺い、情報を収集し、支援計画に考慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人と家族が見学に来られ、心配ごと、困りごとなど生活の様子を伺い、情報を収集し、支援計画に考慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望も踏まえ、支援内容を一緒に考え、優先順位をつけ、サービスを決定している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者主体を念頭に、本人と一緒に作業することにより、自信をもち、その人らしさが活かせるような支援を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、現状報告や本人の望むことは何かを家族と一緒に話し合い、支援につなげている 受診時はできるだけ家族と一緒に同行するよう連絡をとっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行きつけの美容院に家族と一緒に行かれる方がいる お盆や正月はできるだけ家族と一緒に過ごせるようお話をしている	利用者によっては施設に入所された知人を訪問したり、孫との交流、家族の協力を得て外泊や行きつけの美容院に行くなど、これまでの生活を大事にした支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する方ができないよう、職員も一緒にお茶やお話、作業を行い、みんなで協力し、支えあうような雰囲気をつくる支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の施設に入所された方がおり、入居者と一緒に面会に出かけたことがある 退所時に、いつでも相談に応じますと話している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の意思や希望を導きだし、できるだけ本人本位に支援を検討し実践している	利用者が自分の気持を言いやすいように居室や入浴時など一人になった時に気持を聞いている。担当職員は意識的に思いを知ること	に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、本人と家族に面接し、本人の於かれている状況を少しでも多く情報収集することに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティング時、個人の状態を把握し、現状にあった対応が出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて個々の状況に合わせたプランをたて、全員で検討し、支援の統一を行っている 家族とも連絡をとり一緒にアイデアを検討し、現状に即した介護計画をたてている	担当者は毎日ミーティングなどで職員から情報を収集し具体的な内容の計画を立てている。状況に変化があった時は職員全員で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤日誌、業務日誌、個人の介護日誌があり、支援や経過観察を記録し情報を共有している 記録に残すことで現状に添った支援の見直しを随時行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族で入院時の面会が難しい方には、職員が面会に行き、洗濯物を持ち帰っている 急な受診が生じたときは、家族と連絡を取りながら看護師が同行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの診療所に貸出本があり、受診時に借りる方がいる 中学生が年2回、窓拭きのボランティアを行い、一緒に窓を拭いたり、作業後は一緒にお茶を楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の希望もあり、受診時はできるだけ家族に同席していただけるよう連絡を取り、本人の病状、現状を理解していただいている	受診時にはできるだけ家族に同席してもらい医師の説明を聞いてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録があり、どの職員も現状を把握できるようにしている 常時連絡が取れる体制にしており、随時の対応ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に伺い、本人の状態把握に努めている 担当看護師とも連絡をとり、情報を交換し、早期退院できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と家族が終末期についての方向性を話し合い、その結果に基づき、事業所で家族を交え検討し、統一した支援を行っている 重度化についての指針がある	利用者、家族の希望や利用者の状態を考慮し関係者間で話し合いながら対応しようとしている。職員も方針を共有しながら取り組もうとしているが夜間は不安がある。	家族など関係者が協力して取り組む体制づくりと、夜勤者の不安に対し話し合いを重ねながら細やかな対策を立てられることを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急隊の指導による救命講習を実施、毎月1回自発的に訓練を行っている 緊急時、あわてずに対応できるよう話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署職員の指導により、避難訓練を実施、毎月1回自発的に避難訓練を行い、初期消火、避難誘導などあわてずに行えるよう意識付けている	定期的に避難訓練を実施し、毎月1回自発的に訓練を行っている。	訓練に地域の人にも参加してもらえるように運営推進会議などで話し合われることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より人生の先輩である入居者様を尊敬の意識で接し、言葉使いや態度に十分気をつけて対応している	利用者を敬い言葉遣いに気をつけている。排泄の失敗時にも無理強いしないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいのかを自己決定できるような声かけや、対応を工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを大切に、個別的な過ごし方ができるよう、また希望に添った生活が送れるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に家族と一緒にいられる方がいる 外出時、お化粧品や身だしなみに時間をかけお出かけされる方がいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望を献立に組入れている 職員と一緒に楽しい雰囲気で作業ができるよう、また安全にできるよう心がけている	ネギを刻んだり巻き寿司を作ったりテーブルを拭いたり利用者力を活かせる場面がある。これまでできなかったおやつ作りなども増やしていこうと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病を患った方には、栄養のバランスやカロリー摂取に十分配慮している 体調不良時は粥にしたり、食べやすいものに変更している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回ポリデント消毒を行っている 毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている 介助が必要な方は、毎食後、職員が口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄ができるよう介助している 夜間歩行に不安があり、転倒の危険がある方はPTイレを夜間のみ使用している	排泄を促すための声かけのタイミングや、パットの当て方の工夫などを職員同士でいつも話し合い、できるだけトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、健康体操を行っている 排便チェックを記入し、水分摂取の声掛けや、おやつに牛乳、ヨーグルトなど乳製品を取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後の時間帯に職員が1対1で入浴介助、見守りを行い、本人のペースでリラックスして入浴できるよう心がけている 自力入浴できる方は自由に入浴できるように話している	利用者の状態や希望を尊重した支援を心がけている。重度の利用者にもタイミングを見て声をかけ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動になるべく参加していただき、夜間眠れるよう支援している いつでも腰をかけて休むことができるようホールにソファを置いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報をファイルとし、全職員がいつでも把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗物、洗濯乾し、洗濯たたみ、畑作業などそれぞれの得意な分野で自発的に行うことができるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	彼岸やお盆に家族の協力により外出される方がいる 近所の店に買い物の希望があれば、職員と一緒に出かけている 祭りの見学に出かけている	車椅子のため外出しにくかったり、声をかけても億劫がる利用者が増えてきているが、買い物や畑仕事、外気浴など支援している。家族の協力で外出する人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、買い物や、医療機関の支払い等自分で行われている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホールの電話を利用し、料金をいただき、いつでも電話を使用できるようにしてある お孫さんから時々葉書が届く方がおられ、本人の写真の入った便りを送付し、お礼の手紙をいただいた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	近所の方から季節の花をいただき、入居者様と一緒に活け、玄関やホールに飾っている 壁には行事の写真を掲示し、その時の様子を思い出される方もいる。	雛飾りなど季節が感じられものを準備したり、以前の行事の写真、一緒に生活していた利用者の写真などを飾り、利用者の思いや記憶を大事にした環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに掘り炬燵やテレビがあり、ソファをおいて身体を休めたり、仲間と会話を楽んたりされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたタンスやソファを持ってこられ、少しでも自宅に居た時の環境に近づけ、安心して過ごすことができるようにしている	洗濯物を干したり、花、写真、冷蔵庫やお茶道具などを用意している利用者もあり、一人ひとりの利用者の思いを大事にして入居前の生活に近い環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床がフラットとになっており、歩行器や車椅子を自力で操作できるようになっている 手摺を取り付け、安全に移動ができるようにしている		